

# とべとべ



● タイトル 友好 ●

No. 89

題 字: 村井龍全さん(水墨画家)

イラスト: ザリナさん(ウクライナから北海道への避難者)

昭和48年1月13日第3種郵便物承認

HSK通巻番号616号(毎月10日発行)

発行 2023年(令和5年)7月10日

編集人 札幌市中央区南8条西2丁目5-74-402

NPO法人「飛んでけ!車いす」の会

照井レナ 発行番号第89号

電話 011-215-8824 (FAX 共用)

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)

定価 100円(会員は会費を含む)

## 目次

- P2 Special Thanks! (寄付御礼)
- P3 車いす国別一覧
- P4-5 「人財」育成と賛同者増に注力  
代表も交代<2023年度総会>
- P6-7 ウクライナ情報
- P8-9 車いす 届けました! / 届きました!
- P10 『すおすだい』カンボジア<JICA事業報告>
- P11 トピックス(『とべとべ』編集子交代など)
- P12 「飛んでけ」サポーターのご案内  
掲示板(イベント・お知らせ)

車いすを運んでいただきありがとうございます

寄付者：14名

車いすのご提供ありがとうございます

寄付者：46名

ご寄付ありがとうございます

● 寄付金

寄付者：55名

● リングプル、アルミ缶ほか

寄付者：16名

● 切手・書き損じはがき

寄付者：2名

● その他

寄付者：4名

(順不同、2023年6月15日現在)

Wheelchairs delivered to 83 Countries

◆アフリカ・欧州地区		◆アジア・太平洋地区		⑳ ベトナム	606
① ベラルーシ	11	① アフガニスタン	20	㉑ シリア	4
② ベナン	17	② バングラデシュ	46	㉒ フィジー	9
③ ブルキナファソ	24	③ ブータン	1	㉓ ミクロネシア	12
④ エジプト	2	④ カンボジア	222	㉔ バヌアツ	6
⑤ ガーナ	17	⑤ 中国	67	㉕ 東ティモール	3
⑥ ケニア	27	⑥ インド	23	㉖ ソロモン諸島	10
⑦ レバノン	1	⑦ インドネシア	130	㉗ サモア	4
⑧ マラウイ	24	⑧ イラク	5	㉘ 台湾	10
⑨ モーリタニア	2	⑨ ヨルダン	6	㉙ パラオ	5
⑩ モロッコ	11	⑩ 韓国	39	◆南米・中米・北米地区	
⑪ モザンビーク	1	⑪ キルギス	11	① アルゼンチン	16
⑫ ナミビア	1	⑫ ラオス	31	② ボリビア	4
⑬ ルーマニア	8	⑬ マレーシア	116	③ ブラジル	16
⑭ セネガル	1	⑭ モンゴル	31	④ キューバ	24
⑮ 南アフリカ	6	⑮ ミャンマー	53	⑤ ドミニカ	5
⑯ タンザニア	16	⑯ ネパール	143	⑥ エルサルバドル	57
⑰ チュニジア	6	⑰ パキスタン	50	⑦ ホンジュラス	12
⑱ ウガンダ	3	⑱ パプアニューギニア	31	⑧ ジャマイカ	9
㉒ ザンビア	25	㉒ フィリピン	249	⑨ ニカラグア	31
㉓ ジンバブエ	3	㉓ ロシア	10	⑩ ペルー	14
㉔ ナイジェリア	21	㉔ サイパン	2	⑪ セントルシア	1
㉕ エチオピア	5	㉕ シンガポール	25	⑫ ウルグアイ	14
㉖ ルワンダ	4	㉖ スリランカ	80	⑬ パラグアイ	8
㉗ カメルーン	5	㉗ タジキスタン	3	⑭ コスタリカ	8
㉘ ガボン	6	㉘ タイ	440	⑮ チリ	4
㉙ マダガスカル	10	㉙ トルコ	3	⑯ カナダ	2
㉚ ウクライナ	60	㉚ ウズベキスタン	46	⑰ メキシコ	2
◆日本(国内リサイクル)	158			⑱ エクアドル	32

2023年6月15日現在(網掛け部分は2023年2月16日以降の増加分)

# 「人財」育成と賛同者増に注力 代表も交代 <2023年度総会 >

2023年度総会を5月20日、市民活動プラザ星園の会議室で開き、22年度の活動を振り返るとともに、設立25周年を迎える23年度の事業計画などを原案通り承認しました。任期満了に伴う役員改選も行い、2年間代表理事を務めた吉田三千代さんが退任し、引き続き行われた理事会で照井レナさんが新代表理事に就任しました。



## ■「編集者謝金」を初計上／ 人的資源確保に力－質疑応答

これに対して、鈴木隆司会員から「2023年度収支予算・会報費の説明欄に『編集者謝金』とある。過去には計上されてこなかったと思うが、今回計上されたのはなぜか。また、広報宣伝費の説明欄に「広報担当者謝金(4/1-5/20)」とあるが、どういう趣旨か」と質問し、事務局は「『編集者謝金』は、本年度で編集者が交代するため、編集担当者をボランティア会員から新

たに外部編集者に依頼したためである。『広報担当者謝金』は、吉田代表理事の新年度在任期間の謝金である」と回答しました。

また、辻健蔵さんから「25周年記念事業式に向けた寄付金等収入・支出で各100万円としているが、もし寄付がなければ事業式を行わないのか」と質問があり、事務局は寄付金確保に努めるとしながらも「寄付金が100万円に達しない場合でも、事業は実施する予定」と回答しました。同じく、辻さんが吉田代表理事の退任に関連して「今後の運営に向けて人的資源をどう確保していくかという課題がある。予算は組み込まれているのか」と質問し、事務局は「次年度はNPO運営に関する講習会参加費を組み込んだ。NGOインターンシップ事業補助金の獲得も期待している。外務省のNGOインターン生に本会学生会員が応募中で、当該学生会員が、次期代表理事と協働して事務や広報等を担う予定である」と回答しました。

これらを受けて採決の結果、2023年度の事業計画と収支予算案は満場一致で原案通り可決されました。(ノ)

## ■ 世界へ車いす さらに加速

総会では参加者と委任状により出席者が正会員の過半数を満たしていることから会の成立を確認、議長に辻健蔵さんを選んで議事に入りました。

2022年度の事業活動と会計収支などの報告に対して特に質問や意見はなく全会一致で承認されました。

続いて2023年度の事業計画と収支予算案(別記参照)を審議しました。計画では活動方針として、コロナ禍が下火になったことから旅行者による車いす輸送事業が始動し、人災や天災などで車いすを必要としている世界の人々に対して車いすを届ける活動にも参加していることから、「これらの事業を軌道に乗せ、新体制での活動に賛同してくれる個人、企業や団体を増やす努力を行って行きます」として、設立25周年のメモリアルイヤーにあたり、「脈々と続いてきた本会が、これからも持続可能な会となるよう、特に人財育成、賛同者を増やす活動に取り組んでいきます」としました。

## ●2023年度事業計画

海外事業

### 1 車いす輸送事業

ユーザーの身体や環境に合わせて丁寧に整備した車いすを「手から手へ」と届ける。戦争・紛争、天災の被災地のユーザーに対して「手から手へ」の活動が困難な場合は、現地の状況を可能な限り考慮して送る。

### 2 海外整備事業

JICA 草の根協力事業として2022年度からカンボジアで展開中の「女性障がい者の自立支援と広報技術向上による事業強化」プロジェクトで、現地の障がい者団体に寄り添った支援となるよう「車いす修理・整備技術」を伝承する。

国内事業

### 1 車いす貸与・整備・修理事業（会員・一般）

### 2 「車いすの学校」（月2回程度）

### 3 各種イベント（25周年記念事業、各国への車いす提供関連、英語講座）・JICA 草の根協力事業報告会

### 4 各種イベント・講習会参加等

### 5 広報事業 会報「とべとべ」発行（年3回）、ホームページ、Facebook、Instagramなどの活用

### 6 助成金などの獲得：人財育成・周年事業

コーディネーター育成事業費、整備ボランティア育成事業費、25周年事業寄付費

## ●2023年度収支予算

収入総額は1314万2630円（22年度決算比12.8%増）。主な内訳ではJICA 草の根協力事業関連が700万円、NGOインターンシップ事業に伴う助成金が220万円など。支出総額は収入と同額（22年度決算比187%増）で、主な内訳は海外事業費830万円、管理経費176万5640円、車いす輸送事業146万1990円などとなっている。



（左）この後、任期満了に伴う役員改選が提案されました。内容は、龍田成人、吉田三千代両理事が退任、麻薙悠子、上杉祐介、シンシア・エドワーズ、島田祐亮、近澤洋太、照井レナの各理事と長谷川聡、川上純希の両監事が再任、新任として理事に金子正美氏を推薦するもので、全会一致で承認されました。最後に、この総会をもって退任する吉田三千代さんがあいさつ、新代表理事に就任した照井レナさんから花束が贈られました。

### 代表理事退任あいさつ

#### 吉田 三千代

1998年設立以来25年にわたり、多くの会員やボランティア、歴代役員の方々に



にお世話になりました。この四半世紀、アジアの国を訪問する機会をいただき、現地での活動を通して「1台の車いすが生活を変える」ことを目の当たりにできました。今後はコーディネーターボランティアとして、たまには事務所に顔を出します。これまで支えてくださった皆さま、ありがとうございました。新体制の「飛んでけ」への応援もよろしくお願いします。

### 代表理事就任あいさつ

#### 照井 レナ

私が「飛んでけ」に魅せられたのは、北海道医療大学で2度目の学生だった2000年、ゲストスピーカーの吉田三千代さん、柳生一自さんの講義を受けたときです。今も変わらず活気があってボランティア精神にあふれる「飛んでけ」で活動することには、ワクワク感があります。一方で、今回、事務局長を置かない体制を選んだこともあり、苦労も大きいだろうと覚悟しております。



世界には7,000万人の車いすを必要としている人がいると言われ（WHO調べ）、日本においても、制度の狭間で苦しい思いをされている人がいます。「飛んでけ」のミッションは、国内外の障がい者の幸福の追求とボランティア活動の促進です。「飛んでけ」の、このWorldwideな活動のクルクルを回し続けられるよう応援をよろしくお願いします。

### 新理事あいさつ

#### 金子 正美

この度、理事を仰せつかりました金子正美と申します。今年3月まで酪農学園大学の教員をしておりました。ドローンや人工衛星の画像をコンピュータを使って解析し、地図を作成するという空間情報科学を専門としています。マレーシアで青年海外協力隊員として活動していましたことから、現在でも、マレーシアで地域おこしのプロジェクトを実施しています。自分の技術と国際協力の経験を組み合わせ、開発途上国の地域づくり、人づくりに貢献したいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



## 「飛んでけ」60台含む 500台 オール・ジャパンでウクライナへ

昨年2月のロシア侵攻で始まったウクライナの戦況は刻々と変化しています。国内全域が戦場化し民間人も巻き込まれています。車いす利用者も被害を受けており、現地ボランティア団体、FFU(フューチャー・フォー・ウクライナ)の要請で、「飛んでけ」はじめ日本全国の4団体が車いすを継続的に送っています。「飛んでけ」からの車いすは、ウクライナ西部・テルノピリの子ども病院と児童養護施設、首都キーウのウクライナ国立子ども病院、キーウ近郊のイバンキフにある地域ソーシャルサービスセンターなどに届けられています。

「飛んでけ」に寄せられた現地の声を紹介します。

- 「私たちは1人ではない。遠い日本の誰かが自分のことを思ってくれていることを実感できる」
- 「私たちの病院はこの地域で唯一、24時間体制でケアを提供しています。ロシア軍の侵攻以来、405床のベッドは満床状態です。院内は子どもや家族であふれ返っています。ロシア占領地域の南部や東部から避難した人たちが常に院内にいます。激戦地となったマリウポリを含めウクライナ全土の子どもたちも集まって来ます」

(テルノピリ子ども病院)



写真は「飛んでけ」から送った車いすを受け取った男性です。座席の横の「飛んでけ」シールがはっきりわかり、遠いウクライナで使われていることが分かります。「飛んでけ」では、現地から追加要請された500台の一部を引き続き秋から冬にかけて送る予定です。(吉田)

## ウクライナ避難者参加して「車いすの学校」

5月13日、当会が定期的に行っている「車いすの学校」に、戦禍を逃れ道内に避難しているウクライナの皆さんが参加しました。



## ※新聞記事の 掲載は 終了しました



男女6人の参加者によると、ウクライナは日本に比べ車いすが非常に少なく「病院以外で見かけることはほとんどありません」とのことで、初めて触れる車いすの構造や取り扱い方、整備の手順などを真剣に学んでいました。

「車いすの学校」の後、参加者は母国に向けたメッセージカードも作成、近くウクライナに発送することにしています。

当日の様子は5月14日付の北海道新聞で紹介されました(記事写真・北海道新聞提供)。翌15日には、All Japan プロジェクトとしてウクライナに送った車いすが現地に到着した様子が、日本テレビの報道番組NEWS ZEROでも紹介されました。番組は当会HPから視聴できます。  
<https://tondeke.org/515newzero/> (西村)



## ウクライナ語のお見舞いカードを現地に

ウクライナ支援をしている札幌市北区の語学学校「サンフレンズ」でボランティアとして活動している北海学園大3年の角田未来さんが、友人や在札ウクライナ人の方たちに呼びかけてウクライナ語のお見舞いカード70通をまとめ、「飛んでけ」が車いすを届けたウクライナの病院や団体に送りました。

<角田さんから>

私は、ウクライナ問題について日本の学生に当事者意識を持ってもらい、ロシアの侵攻に対して真剣に考えてほしいと思い、この活動を始めました。協力してくれた学生は、北海道に20名以上の避難民がいることに驚きながらも、慣れないウクライナ語で「平和や安全な暮らしを願っている」と書いてくれました。ロシアの侵攻に苦しむ人々にとって、遠く離れた日本からの応援メッセージが心の支えとなることを願っています。

## ウクライナを知る集いに30人



オール・ジャパンの活動としてウクライナに車いすを送ったのを機に、在日26年で札幌市に住むウクライナ人、ニーナさんに、お国の文化や街並みを紹介してもらった集いを4月22日午後、市民活動プラザ星園で開きました。30人が参加し、ウクライナ民話『てぶくる』をウクライナ語と日本語で朗読してもらった後、ニーナさんのお母さんのレシピという手作りのバイクド・チーズケーキとバラ風味のお茶をいただきました。

次回の「ウクライナを知る集い」を次の日程で開きます。講師は札幌在住のペロニカさんをお願いしています。

日 時：8月26日(土曜日) 13:30～  
場 所：市民活動プラザ星園(札幌市中央区南8西2) 2F 大研修室  
タイトル：「ウクライナは今」～在札ウクライナ女性から～  
定 員：60人  
参 加 費：無料  
申し込み：事務局へメール → [tondeke@bz01.plala.or.jp](mailto:tondeke@bz01.plala.or.jp)  
または電話・FAX 011-215-8824 まで。  
締 切：8月22日(火) 正午

# 車いす 届けました！／届きました！

## ベトナム

### パックツアーで車いすを届ける 根子 香代さん（札幌市豊平区）

コロナで大打撃を受けた旅行業界と観光地を応援したくて、久しぶりにパックツアーでベトナム旅行に出かけてきました。

今回は、息子と成田で落ち合っの東京発LCCツアー（空港送迎付きプラン）で、旅行会社とはネット上に開設した私専用の「マイページ」で交信しました。札幌ー成田間の航空会社との連絡も「ライブチャット」というオンラインツールのみで、「車いすを運びたい」という私の希望がちゃんと通じたのが微妙でした。実際、国内線は、事前のやり取りでは「必要ない」と言われていた車いす分の追加料金が必要で、国際線は逆に当日になって「不要」となりました。空港カウンターがワクチン接種証明の確認等に追われていたことも関係したと思います。

ハノイに着き、車いすを届けた団体ACDC（Action to the Community Development Institute）では、マルチリンガルなスタッフたちがスマートに働いており、車いすでは働きにくいことが多い日本のオフィス環境が貧しく感じられました。届けた日はたまたま「国際女性デー」で、この日は現地の人たちがとても大事にされているようで、その意味でも忘れがたい経験となりました。

余談ですが、新品のように整備・梱包された車いすは、ツアー参加者たちの目を引き、帰国した成田空港でツアー仲間の一人から「あの車いすはどうされたのですか？」と聞かれて、「飛んでけ」の活動を説明したら「そのようなボランティアなら、私もやってみたい」と言っていただけました。様々な方たちが参加するパックツアーで運んだ良さを実感しました。



# ベトナム

「今後も活動続けます！」

松本 未香さん

(株式会社シーぽーと 札幌市厚別区)

出張で訪れるたび、経済成長著しく、躍動感あるベトナムを感じます。ただ、車が増えて高層ビルがどんどん建って、おしゃれなカフェがたくさんできて、障がい児者にまでは十分手が回っていない現状があります。

その中で、成長期である12歳のカン君の車いすが体にあわず、活動が制限されている状況をずっと見ていました。今回、新しい車いすを届けたことで、カン君のうれしそうなお表情だけではなく、たくさん声を出したり、手の動きが出るなど、カン君の意欲の強さと、さらなる可能性を感じました。

車いすが変わることで行動範囲が広がる、やりたいことが増える、人生が豊かになる、この素晴らしい活動を、今後も継続してお手伝いできればと思っています。



# モンゴル

喜びの声に感激

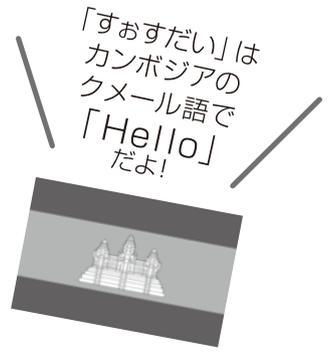
鈴木 茂さん(埼玉県上尾市)



モンゴルで人道支援をしているNPO 法人ニンジン(東京)のスタッフツアーで、4月末に車いすを届けてきました。受領者のアリオカさんは高校を卒業して「これからは自分で自由に動けるように車いすが必要」とのことで、新品同様に整備・清掃された「飛んでけ」からの車いすを見て「天にも昇る心地がします」と、お母さんとともに大変喜んでおられました。書類準備なども含め、「飛んでけ」さんにはお世話になりました。良い機会をありがとうございました。

# すおすだい カンボジア

## < JICA 事業報告 >



### スオスダイ！

JICA 草の根技術協力事業担当の上杉です。今号も『「すおすだい」カンボジア』と題して、本年度から開始された JICA 草の根技術協力事業について紹介します。

### 写真展を 開催

5月20日～21日に、市民活動プラザ星園1階のカフェスペースにて写真展を行いました！

20日に行われた「飛んでけ」総会後には事業報告会も実施し、2回にわたって行ったブンペンでのワークショップの様子を紹介しました。実際に現地を訪れたメンバーのお話を通して現地での活動やカンボジアの様子などをリアルに知っていただけたのではないかと思います。

市民活動プラザ星園での展示に続き、6月24日～28日には、西区宮の沢の札幌市生涯学習センター「ちえりあ」内リサイクルプラザ宮の沢でも写真を展示しました（上の写真）。こちらでも、リサイクルプラザにいらっしゃった多くの人に写真の展示を見ていただ



くことができました。両展示に来ていただいた皆さま、ありがとうございました。

ちなみに、現在も写真の展示スペースを提供していただける方を募集しています。「展示してもいいよ！」という方がいらっしゃいましたら、下記までご連絡ください。

担当者：上杉祐介 [uesugi.yuusuke@tondeke.org](mailto:uesugi.yuusuke@tondeke.org)

### ワークショップ後の 現地では

こうつつか  
ちエ開いん  
らブしてポ  
かサてのジ  
ライ情ア  
。トる報事  
はを業に



1月～3月の2回のワークショップ後、参加した団体の Disability Development Services Program から「自分たちでも同じ形でワークショップを開催したい」との連絡をもらい、現在計画を進めています。また、参加団体の Cambodian Handicraft Association からは、自分たちで車いすの修理を行った報告が写真とともに届いています。

現地でのワークショップは計 4 回予定しており、次回は 11月に首都ブンペンから北に 200km 離れたポーサットという町で行う予定です。今後どのような活動になっていくか、ホームページや SNS でチェックして見守ってください。

それでは、チュオップ・クニア・ペール・クラオイ！（また今度！）



## ■銭函中学生が「飛んでけ」訪問

5月25日、小樽市立銭函中学校の生徒さん4人が「飛んでけ」事務所を訪れ、「飛んでけ」の活動について勉強していただきました。「まちづくり」をテーマにした総合学習の一環で、照井から「手から手へ」を合言葉に続けている海外へ車いすを届ける活動や、その大もとなっている丁寧な整備ぶりなど紹介し、車いすの試乗体験もしてもらいました。生徒さんからは「札幌市に望むことは何ですか」といった質問があり、「今後大きな課題となってくる札幌での高齢者の増加やごみ問題について、「飛んでけ」と協働してもらいたい」と伝えました。(照井)

## ■毎月11日は『黄色いレシートキャンペーン』の日

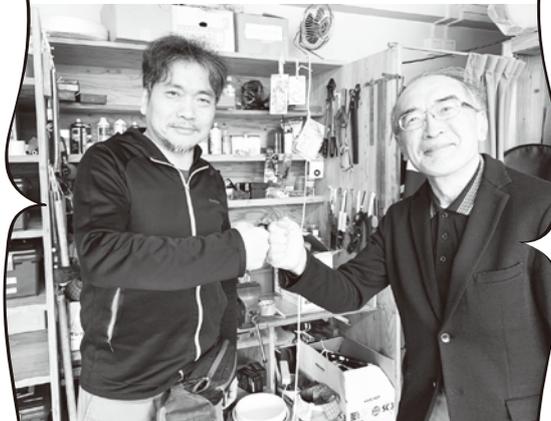
「飛んでけ」は、イオンの「黄色いレシートキャンペーン」に協賛してイオン桑園店（札幌市中央区北8西14）で毎月11日、店頭でレシートの寄付を呼びかけています。一緒に活動してくれる方を募集します。同キャンペーンは、イオンの「企業の社会的責任」(CSR)推進活動の一つで、参加ボランティア団体の箱にレシートを入れると、レシート金額の1%(100円なら1円)が後日、イオンからギフトカードとして団体に寄付されます。「飛んでけ」では、箱を持った有志がレジ近くに立って、行き交う買い物客に協力をお願いしています。活動時間は、同店の営業時間(午前10時~午後11時)の間の1時間程度で参加者の都合で伸縮可能です。「参加してみたい」という方は担当の島田(sas.yusuke-aja@hotmail.co.jp)までお問い合わせください。

## ■「とべとべ」編集子が交代

71号から編集を担当してきた鈴木隆司=写真・右=は今89号をもって退任します。後任は札幌で活躍しているライター、西村裕広(やすひろ)さん=同・左=です。引き続き「とべとべ」をご愛読ください。

### 【西村・ひとこと】

このたび代表を退任された吉田三千代さんとは古くからお付き合いをいただいております。その関係で、ず——と昔にも少しだけ「とべとべ」の編集をお手伝いしたことがありました。長い時を経て再び編集をお手伝いすることになったのも、なにかのご縁。至らないことも多々あるとは思いますが、あまりワタシをイジめることなく、これからもご協力の程よろしく願い申し上げます。



### 【鈴木・ひとこと】

サラリーマン生活をフルリタイアして間もない2017年1月から足掛け7年半、担当してきました。生来の不器用で当初はレイアウトに四苦八苦しましたが、後半は特定非営利法人障がい者就労支援の会「あかり家」のデザインチームの皆さんに助けられてここまでたどり着きました。これからも「とべとべ」が、会の活動とともに順調に号を重ねることを祈っています。ありがとうございました。

# 「飛んでけ」サポーターのご案内

## ●会員になる

- ・あなたの会費で世界中の障がい児・者に車いすが届きます。
- ・年3回会報を送ります。
- ・メールマガジンでイベント案内などが入手できます。
- ・車いすを無料で借りることができます。

■正会員	一般	5000円/年
	学生	1000円/年
■賛助会員	一般	2000円/年
	団体	5000円/年

## ●車いすを提供する

「家に使っていない車いすがある」「職場や知り合いが車いすを処分する」等の情報があればご連絡ください。無料で引き取ります。

## ●車いすを届ける

途上国に旅行する方で、車いすを直接届ける体験をしてみたい方はご協力ください。

## ●物品で支援する

リングブル・書き損じはがき・未使用切手・海外土産品・商品券（QUOカード等）・中古DVD/CDも集めています。

## ●寄付をする・会費を振り込む

【郵便振替口座】記号番号 02780-6-2973 【ゆうちょ銀行口座振込】記号 19070 番号 5406461

【北洋銀行】札幌駅南口支店 普通 4117153 【ウェブ決済システム・Syncable】※詳細は事務局へ

## 掲 示 板

### < イベント >

- ▼「ウクライナを知る集い」：8月26日（土）13:30～、市民活動プラザ星園。申し込みは8月22日（火）正午までに事務局へ。

### < お知らせ >

- ▼「車いすの学校」は当会が培ってきた整備技術を学べる場所です。どなたでも参加していただけます。毎月第2・第4土曜日の13:30～16:00に開校。参加希望者は事前に事務局までご連絡ください。
- ▼ボランティア募集（交通費実費支給）：事務所での軽作業、会報作成・編集、車いす整備、英文メールでの海外団体等とのやりとり
- ▼「飛んでけ」事務所の開設日：火曜日、土曜日の正午～18:00（他曜日、時間帯の問い合わせはメールまたは留守番電話・ファックスで）
- ▼「飛んでけ」事務所は、お盆期間中の8/11（金）～8/15（火）の間閉鎖します。
- ▼「とべとべ」ウェブ版公開中  
会の活動を広く発信するため『とべとべ』88号を会のホームページで公開（期間限定）し、89号以降も継続する予定です。会内部の保存用として創刊号からの全号も電子化しています。問い合わせは事務局まで。

<https://tondeke.org/tobetobe88/>



## ●問い合わせ

「飛んでけ！車いす」の会 事務局  
電話／FAX 011-215-8824  
メール：tondeke@bz01.plala.or.jp

